2016年　トンボ調査で分かったこと！

～2016年度調査結果ダイジェスト～

本調査臨海部では、２０１４年より２年間、捕獲される種がほぼ基本６種（シオカラトンボ・ウスバキトンボ・ショウジョウトンボ・ギンヤンマ・チョウトンボ・オオシオカラトンボ）ばかりとなってしまい、しかも、その内容が極端にシオカラトンボに偏るという状況が続いていました。こうした現象が一時的なものなのかどうか、今年度２０１６年の調査はその行方を占ううえで注目されました。

さて、その捕獲結果ですが臨海部は合計８種、４８６頭でした。２年続けて過去最低の７種であったので種類数はやや上向いたわけですが、過去平均は9.8種であることよりまだ低めの傾向と言えます。今回初めて基本６種の一角であるチョウトンボが捕獲されませんでしたが、目撃記録としては２地点３個体の報告がありました。内容的には、新顔としてオオヤマトンボが、そして２０１３年以来としてコシアキトンボとネキトンボが捕獲されたりと、むしろ明るい兆候が目立っています。また、個体数の方はウスバキトンボを除くと３２０頭で、ほぼ平年並みでした。トンボの絶対数はほとんど変化していないと言って良いでしょう。一方、内陸部に目を向けると、二ツ池では前年と一転して捕獲が10種89頭と回復を示しました。久しぶりのウチワヤンマ、前年度捕獲の途絶えたコフキトンボやリスアカネが記録されたことは朗報です。

種の保存、生物多様性にとって、個体群の大きさは重要な問題です。そこで今回はさらにＪｏｈｎｓｏｎ法という専門的方法を用いて臨海部の日当たり個体群の大きさも推定してみました。その結果、シオカラトンボではキリンビールと北２センタの２地点でそれぞれ21頭、臨海部全体は５１８頭という数値が得られ、各地点で約４％程度の個体が展開している可能性があることがわかりました。また、ショウジョウトンボではトンボみち10頭、北２センタ25頭、臨海部全体は75頭で、各13％と33％となり、これら２地点だけで臨海部の半分近くという偏った分布であることもわかってきました。２種間のこうした違いがそれぞれの個体数の安定さなどとも結びついている可能性があるので、今後も検討していきたいと思います。

田口正男（農学博士）

本調査開催日程と参加者数（赤は開催中止）

＜2016本調査日程と参加者数＞　日にちは全て8月　赤は雨天中止

調査場所	通称	京浜臨海部							内陸部／南部															備考
		1日（月）	2日（火）	3日（水）	4日（木）	5日（金）	6日（土）	7日（日）	15日（月）	16日（火）	17日（水）	18日（木）	19日（金）	20日（土）	21日（日）	22日（月）	23日（火）	24日（水）	26日（金）	27日（土）	28日（日）	29日（月）		
キリンビール㈱横浜工場	キリン		○	○	○																			
JFEエンジニアリング㈱　JFEトンボみち	JFE	○	○	○																				
㈱東芝　京浜事業所	東芝			○	○	○																		
㈱JVCケンウッド	JVC	○	○	○																				
マツダ㈱　R＆D横浜センター横浜	マツダ	○	○	○																				
国土交通省横浜港湾空港技術調査事務所	技調	○	○		○																			
横浜市北部第二水再生センター	北二	○			○	○																		
横浜サイエンスフロンティア高校	SF高	○	○		○																			
貨物線の森	貨森					○	○	○																
入船公園	入船					○	○	○																
三ツ池公園	三ツ池								○	○	○													
二ツ池	二ツ池													○	○	○		○		○				
高田池（ルート1）	高田池								○	○	○													
SMSばいくショップ（ルート1）	SMS											○	○	○										
東横フラワー緑道	東横												○			○	○					○		
本牧市民公園	本牧																		○	○	○			
調査地点数	16	6	6	5	5	4	2	2	2	2	2	1	2	2	1	2	1	1	1	2	1	1		
参加者数		26	28	22	25	26	12	8	20	14	17	3	10	雨天中止	5	雨天中止	8	6	8	15	3	6	合計	
		147							115														262	